



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第12回)



財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 秋の県大会で一コマ。選手のちょっとした心配りに好感が…

秋の県大会を観戦しました。ファウルの後で捕手が打者にバットを手渡したり、打者が捕手のマスクを拾ってあげたり…、好感がもてました!

スポーツ・ゲームで相手・味方を超えた場面です。何でもないことのようにですが大事な「心配り」と言えるでしょう。ボール・デッドの時など、プレイとプレイの間(ま)＝ボールが動いていない時間も早く、お互いにスムーズなつながりを大切にしなければ緊張感は生まれません。思わず知らず、だらける原因にもなります。ある県では「道具を拾い合うキャンペーン」を呼びかけているそうです。(走者のヘルメットが落ちた時には、プレイの落ち着きを待って審判員が拾って届けることもあります。) **何よりゲームの始点はホームベース**、その周辺に、常に心地よい緊張を保つことはマナーの原点でもあるのです。



ルール編 サヨナラのつもりが延長戦へ…?? 【同点で迎えた9回裏での出来事】

2死二塁の場面で見事なホームラン。ところが二塁走者が三塁を空過したとのアピールを塁審が認め、二塁走者にアウトを宣告し延長戦に。だけどホームランの打者走者は本塁を踏んでいたのに…。

規則 7・12 に、「無死または一死のとき、前位の走者が、ある塁に触れ損ねるか、リタッチを果たさなかったとしても、正しく各塁に触れて進んだ後位の走者は、前位の走者の責を負ってその正しい走塁を取り消されることはない。ただし、**二死後、前位の走者がアピールによって3人目のアウトとなったときには、後位の走者が正規に本塁に触れていても、その走者の得点は認められない。**」と記されています。**触塁のために走塁があることを改めて理解しましょう。**

2死満塁で打者が四球を選び、三塁走者が本塁を踏んだ。打者も含めて選手は試合終了の挨拶に整列し始めた。ところがここで球審は打者にアウトを宣告し延長戦に。どうして?

規則 4・09 (b) 【注】で、「例えば最終回裏、満塁で打者が四球を得たので**決勝点が記録されるような場合、次塁に進んで触れる義務を負うのは、三塁走者と打者走者だけ**である。三塁走者または打者走者が適宜な時間がたっても、その義務を果たさなかった場合に限り審判員は、**守備側のアピールを待つことなくアウトの宣告を下す。**」と記されています。基本的な義務を怠ったために、サヨナラを逃した悔やみきれない事例です。

2死走者三塁。投手はストライクが入らず、4球目が暴投。三塁走者は本塁を駆け抜けた。打者は一塁へ進まず仲間と大喜び、守備側がアピールしても気づかない。球審はアピールを認め、打者にアウトを宣告し延長戦に。アマチュア野球では、打者は一塁へ行かなくてもいいのでは?

たしかに、アマチュア野球内規では、最終回裏、走者三塁、打者の四球目が暴投または捕逸で決勝点が記録されるとき、**四球の打者が一塁へ進まなくとも、上記の規則 4・09 (b) のように、審判員が打者のアウトを宣告して、得点を無効にすることはありません。**打者が一塁へ進まずとも、守備側のアピールもなく、両チームが本塁に整列すれば、四球の打者は一塁へ進んだものと記録されます。ただしこの事例のように、打者が一塁に進もうとせず、**守備側のアピールにより打者の走塁放棄が整列前に認められた場合に限りアウトとなります。**